

露地いちごの苗質及び花芽数向上による生産安定

南部分場，野菜花き部

1、背景とねらい

県内における露地いちごの生産は、6月収穫中心の露地普通栽培と多雪地帯や高標高地帯の融雪の遅い立地条件を活かした露地遅出し栽培が導入され、地域の気象立地に適合した産地が形成されている。

しかしながら、露地いちごの生産は、気象条件に左右されることが大きく、年次により収量や品質が変動し経営の不安定要因となっている。

そのため、良苗生産を始め総合的な露地いちごの生産安定技術の確立が急がれている。

ここでは、苗質及び花芽数向上技術を中心に検討したところ、成果が得られたので指導上の参考に供する。

2、技術の内容

(1) ランナーの早期発生，子株の増殖効果が高いのはハウス栽培である。

簡易なランナーの増殖法としては、有孔ポリトンネルの利用が省力的である。

保温期間は平均気温2～3℃で開始し、15℃が確保される頃まで行う。

(2) 早期仮植による増収効果が高い。

県中央部以南，沿岸部での仮植時期は6月下旬～7月上旬とする。

(3) 花芽数増加のための秋保温方法は、ハウス，有孔ポリトンネル，べたがけいずれも有効であるが、開始時期は平均気温10℃頃からとする。

べたがけの除去は新葉が伸び始める時期とする。

(4) 収穫始めから終わりまでの雨よけにより灰色かび病が軽減されるとともに、収量性が向上する。

(5) 適応地域 県下全域

3、指導上の留意事項

(1) 品種は盛岡16号とする。

(2) ハウス利用のランナー増殖のための親株の温度管理は、日中25℃で換気する。

また、圃場の排水対策を徹底する。

(3) 仮植する苗は2～5葉苗の範囲とする。

(4) 秋保温効果は暖秋冬の年には効果が少なく不時出蕾の心配もあるため、温度管理に留意し5～15℃を目標にする。

(5) 秋保温のハウスやトンネル終了後、冬枯れ防止対策を3月上～中旬まで行う。

4、当該事項にかかる研究課題名
露地いちごの品質向上と生産安定技術の確立
山村地域活性化のための技術開発（沢内村）

5、参考文献，資料

昭和54年度 指導上の参考事項 露地いちごの冬枯れ防止 南部分場
昭和57年度 普及奨励事項 夏どりいちごの栽培法 岩手園試野菜花き部

6、試験成績の概要

1)ランナーの増殖法

表1 葉数別子株数量（7月20日）

(63年度)

保温方法	ランナー発生数(本)	葉数別子株数(個)								2~5葉合計(個)	比(%)
		1	2	3	4	5	6	7	8		
①ハウス	18.2	22.0	22.8	20.4	12.0	3.4	0.8	0.8	1.0	58.6	305
②トンネル (ユ-ラックカキ5号)	13.8	11.0	12.5	10.5	12.0	4.0	1.0	0.2	0	39.0	203
③露地	8.8	8.3	7.7	7.6	3.2	0.7	0	0	0	19.2	100

2)仮植時期

表2 収量(40株)

(元年度)

仮植時期	良果(個)	良果(g)	A(個)	A(g)	B(個)	B(g)	くず果(個)	くず果(g)	a当り収量(kg)	比(%)
6/25	710	5,716	98	1,718	136	1,414	352	1,360	126.4	100
7/5	551	4,663	61	1,257	196	2,019	459	1,806	113.4	90
7/15	419	4,337	48	964	127	1,167	360	1,407	92.4	73
7/25	439	3,633	37	702	89	880	393	1,423	74.5	59

3)花芽数増加技術

表3 収量(40株)

年次	保温方法	良果(個)	良果(g)	A(個)	A(g)	B(個)	B(g)	くず果(個)	くず果(g)	a当り収量(kg)	比(%)
62年度	ハウス+トンネル(11~12月)	724	6,712	93	1,780	368	3,570	200	911	172.3	138
	ハウス(11~12月)	662	6,019	71	1,474	416	3,766	175	802	160.8	128
	露地	488	4,951	73	1,498	219	2,316	108	492	125.2	100
元年度	べたがけ:タフベル(11/1~12/15)	616	5,606	64	1,324	148	1,600	200	906	121.9	137
	トンネル:ユ-ラックカキ5号(11/1~12/15)	650	5,922	66	1,328	150	1,284	210	916	121.9	137
	露地	468	4,077	48	958	124	1,202	469	1,767	89.1	100